

ためして漢方!

その38

乾いた咳



Q ここ数年、寒くなり乾燥してくると風邪をひき、咳が出はじめ長引きます。痰が粘って切れにくいです。咳や痰が長引かせずに、すっきり治す漢方がありますか?

(35才男性)

A 喉の乾燥感があり、乾性咳嗽が続き、痰がほとんど出ない場合には、第一選択として**麦門冬湯**を用います。咳き込み、顔を真っ赤にするような場合によく効きます。気管支拡張作用や気道粘膜正常化作用、肺胞サーファクタント分泌作用などの薬理学的作用がよく研究されている処方です。さらに症状が遷延した方や、夜間に喉や鼻の乾燥が強い高齢者には**滋陰降火湯**が適しています。乾燥した咳が長引き不眠や不安などが強くなって来た方には**竹筴温胆湯**がお勧めです。不眠と咳の両方を改善します。更年期障害のようなホットフラッシュや異常な発汗、精神的な不安定さを伴う咳には**滋陰至宝湯**がよいこと

があります。婦人科三大処方の一つである加味逍遙散の姉妹のような処方です。

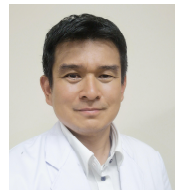
喉の奥に何かが張り付いているように感じ、それを出そうと咳き込む場合には**半夏厚朴湯**を用います。古来より『咽中炙癭』(喉の中の炙った肉)とも『梅核気』(梅の種のように塊が詰まっている)とも呼ばれる症状です。微熱や倦怠などを伴う場合には、小柴胡湯を合方した**柴朴湯**を用います。

喘鳴と発汗を伴って激しく咳き込む人には**麻杏甘石湯**が適しています。麻杏甘石湯に桑白皮を加えた**五虎湯**も類似の病態に用いますが、飲みやすいため子供に頻用されます。不安などの精神的な負荷で喘息発作が悪化しやすい方には**神秘湯**がお勧めです。神秘的に効果があるという名前の由来のとおりとてもよく効きます。

(野上達也)

処方解説

参蘇飲



かっこんとう

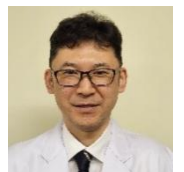
漢方にはたくさん風邪薬があります。その中で**参蘇飲**は私が日常診療をしていて、日本の患者さんの風邪症状に合っているなど感じている漢方薬です。参蘇飲には気を補う作用、気の滞りを改善する作用、消化機能を高める作用、余分な湿を除く作用があります。普段から胃腸の弱い人、咳・痰が長引く人、アレルギー性鼻炎がある人などの風邪に最適な処方です。

構成生薬が多く、人参、大棗、甘草は気を補い、茯苓は消化機能を助けます。前胡、桔梗、半夏には余分な湿を除く作用や咳を止める作用があり、枳実^{きじつ}は気を巡らせます。陳皮^{ちんぴ}、紫蘇葉^{しそよう}、生姜^{しょうきょう}は余分な湿を除く作用と気を巡

らせる作用を有しています。これらに葛根湯の主要な生薬である葛根^{かっこん}が加わりますが、葛根^{かっこん}は筋緊張を緩め、血流を良くする作用があります。紫蘇葉^{しそよう}、葛根^{かっこん}ともに体の表面に存在する病邪を除く作用を有しています。

このような作用を持つ**参蘇飲**ですが、日本人は消化機能が弱く、日本は湿度の高い国であり、日本人の風邪患者さんに適した薬と言えるでしょう。

(谷口大吾)



漢方医学の基本理論 ～「水滞」について(6)～



水滞の④心下型では心窩部を軽く指で叩くとポチャポチャと水音がする胃部振水音や、悪心、嘔吐、下痢、消化管蠕動音の亢進などの消化器症状を認めます。急性胃腸炎などの感染症や、機能性胃腸症や過敏性腸症などの機能性疾患がこの病態に相当します。

水滞の心下型はあまり陽証を呈することはなく、どちらかと言えば冷えを伴う陰証の病態となります。また実証は少なく、虚実間証から虚証の病態が多くなります。

日常診療で頻用するのは茯苓飲ぶくりよういんです。心下で振水音が目立ち、胸焼け、ゲップ、食欲不振、胃部膨満感などの症状を伴います。気滞の症状を伴う場合には茯苓飲合半夏厚朴湯はんげこうぼくとうも良いでしょう。食欲低下が目立つ場合には六君子湯りっくんしとうを用います。六君子湯は多くの臨床研究が

行われている処方であり、特に機能性胃腸症に対する有用性は良く知られています。

水滞の心下型で、冷えが強い場合には人參湯を選びます。胃部振水音だけでなく、心窩部の冷えが目立ち、手足も冷えて、薄い唾液がたくさん出てしまうような場合が適応です。激しい頭痛があり、悪心や嘔吐を伴う場合には呉茱萸湯ごしゅゆとうです。特に片頭痛がある方には呉茱萸湯を用いると、発作が治まるだけでなく、長く服用することで発作の頻度を減らすことができます。頭がぼんやりと締め付けられるような頭冒感や眩暈がある場合には半夏白朮天麻湯はんげびやくじゅつてんまとうを選びます。半夏白朮天麻湯は人參と黄耆おうぎを含む参耆剤じんぎさいですので虚証が強い際に頻用します。(野上達也)

鍼灸治療のご紹介 ～咳～

* 鍼灸治療は自費診療 (1回6,000円+税)となります



喘息、風邪、花粉症、外気温の急激な変化などにより咳は生じます。最近ではマイコプラズマ肺炎が流行しているため、咳には注意しましょう。また喘息などで咳が続くと肺炎を引き起こすこともあり、油断をしてはいけません。

表面で半夏厚朴湯処方となる、喉の奥に何が張り付いていて、出そうと咳き込む時には天突てんとつを使用しましょう。この天突は『咽中灸燻しゃれん (咽喉部に引っかかるような違和感のあ

る状態)』によく使用します。天突は指で骨の裏側に刺激をするように押さえてください。咳き込みすぎて喉が痛い時には少商しょうしょうを使用しましょう。位置の問題から、刺激にはお灸の方が良いと思います。

咳は東洋医学でも肺の問題と考えます。肺は冷えに弱いとされていますので、外気温の低いこの季節は、呼吸器系が弱い方や咳が出やすい方は防寒をしっかりとしてください。

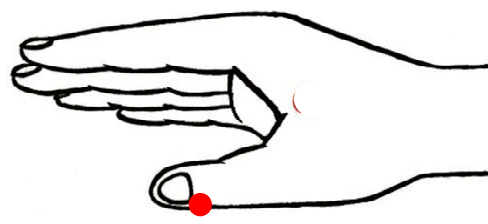
(山中一星)

天突
(てんとつ)

少商
(しょうしょう)



鎖骨と鎖骨の間



母指の爪の外側根元

